

# 61 静岡工科自動車大学校

Shizuoka Professional College of Automobile Technology

## 来年度こそ全てを乗り越える

サツフォーミュラチーム  
SAT'S Formula Team



### 今回の総合結果・部門賞

●総合 79位

### Profile チーム紹介・今までの活動

本校は、今年の大会で2回目となり昨年度のマシンからレベルアップしたマシンで大会に挑みました。昨年度は、車検を通過する事ができませんでしたが、今年度は車検を楽々通過し動的審査も全て通過できるよう、ジャンプアップ賞をめざして大会に挑みました。

### Team-member チームメンバー

-(CP)

杉本 童 (FA)、白井 斉温、渡辺 裕貴、鈴木 一則、志村 祥太、渡辺 優姫、上田 拓、松田 大河、鈴木 雄真、永谷 遼太、大石 真也、芹沢 悠介

### Sponsors スポンサーリスト

スズキ、丸山工業、NTN、ユニバンス、ユニフォームセンター、静岡工科自動車大学校後援会

## Presentation プレゼンテーション

マシン名: **SFT02**

私たちチームは大会出場が2回目となり、今年度はコンパクトを目標にマシンを作ろうと考えました。そのためマシンのコンセプトは、「旋回性」と「軽量化」としました。パワートレインにおいて、プロペラシャフト駆動を採用することにより、チェーン駆動に比べて調整が不要となり、メンテナンスフリーを実現しました。さらにフロントフープを2つ用いて、ドライバースペースを確保いたしました。マシンのフレームは今年度は3種類のパイプを使用し、強度の必要な部分とそうでない部分でパイプを使い分けしてあります。

マシンの走行性能なども考え、自作ナックルを使いアーム角度やアライメント調整などもしやすいように改良してあります。今年度もベルクランクを採用し汎用の原付用サスペンションを使うことにより、カスタマイズ性も向上させ整備性も高いマシンになっております。

今年のマシンはサージタンクやパワーコマンドなどを取り入れました。ステアリングにはベベルギヤを使用することによりペダルまわりに広いスペースを確保しました。昨年度のマシンに比べ旋回性能がアップしております。来年度はマシン走行テストを行い、パーツひとつひとつを基本的なところから見直しより良い物を製作していきたいです。

## Participation report 参戦レポート

今年度が2回目となる私たちにとってこの大会は、とても貴重なものであり自分達が成長できる場所でした。今年の目標としては、技術車検を合格し、動的審査を全て通過しジャンプアップ賞を獲得することでした。

今年度の大会ではコストが書類通過せず、ポイントを獲得する事ができませんでしたが、他の静的審査は何とか受ける事ができました。他校と比べると完成度などは劣りますが、自分達で製作したマシンはいちばんだと思っています。今年度も私たちにとって大きな経験になりました。その後の技術車検ではいくつかの指摘は受けましたが、昨年度に比べ、数段とマシンの完成度が高いと感じました。車検での指摘項目を修正し、2度目の再車検で見事通過しました。その後、騒音とチルト、ブレーキの審査を受けたのですが、エンジンの調子が悪く、うまくセッティングができていなかったため、アクセルを開けていっても高回転でくすぶりうまく吹けない状態でした。ですが、チームメンバー全員でなんとかセッティングを行い3つの審査に挑みました。騒音とチルトは問題なく通過し、昨年度通過できなかったブレーキテストにチャレンジし、今年度は1回で通過することができました。

残りは、動的審査ですが、審査に行くためにマシンを準備している中、さまざまなトラブルが起これ、結果スタートラインにマシンを持っていったのですが、最後の最後でバッテリーの容量不足で、エンジンがストップ。コースを走る事ができませんでした。時間もなく審査員の方や他校の方々に協力してもらいながらも全てを通過する事ができず大変悔しい思いでいっぱいです。ですがメンバー全員が全てを出し切りやりきった気持ちで、悔しい気持ちもありますが、とてもすがすがしい気持ちでもありました。今年度は目標を達成する事ができず来年度こそは素晴らしい結果を残して欲しいと、後輩達に託していきたいと思っています。

**Team-Movie** <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/61.html>